

加登田 恵子 KATODA Keiko



研究分野：社会福祉学

キーワード：社会福祉実践史、福祉文化アプローチ

研究トピックス：

ライフヒストリー調査を通じた“被爆体験”の継承性の研究

研究の要旨：

戦後 75 年、戦争を体験したシニア世代の人々は、平和への希求を伝えるために、自らの体験を若い世代に語り継ぐ活動に取り組んで来られました。しかしながら、体験世代の高齢化が進み、「原爆被爆体験者」も急速に減少したため、次第に「語り部活動」が困難になってきました。そのことに危機感を覚え、原爆被爆者のライフヒストリーのアーカイブ（記録保存）化事業が開始されました。この「被爆者の語り部活動」のアーカイブ化事業に参画するに当たり、福祉文化論の観点から、対話構築主義に基づくライフヒストリー研究の手法により書記録化作業と分析検討を行いつつあります。

とくに、この聞き取り作業で得られたライフヒストリーを、山口県に在住する原爆被爆者の被爆体験が各自のライフコースに及ぼした影響及びその後の社会的状況の変化が人生や人生観に与えた影響について考察するとともに、ライフヒストリーの聞き取り体験という「話者」と「聞き取り者」との相互関係を、「被爆者世代」と「戦争を知らない学生世代」との異世代コミュニケーションによるアクションリサーチとして位置づけ、被爆体験の継承の可能性について研究をしています。



主な関連業績：

2016 年～毎年継続発行しているアーカイブ報告書

『平和のバトン』Ⅰ～Ⅴ

その他、児童福祉調査史研究、福祉系 NPO 活動（障害児の地域療育・DV 被害者支援等）に実践的に関わってきました。



[教員紹介へのリンク](#)

[教員データベースへのリンク](#)